

「測量の日」における功労者及び贈呈理由

今年度は、以下の個人 2 名、2 団体の方々に感謝状を贈呈します。

(五十音順 敬称略)

【個人】

◆^{おおくぼ たけゆき}大窪 健之 (立命館大学工学部・教授、研究部・部長(自然科学系))

大窪健之氏は、歴史都市や文化遺産の防災設計と、歴史を活かした防災まちづくり手法の開発を研究テーマに「歴史都市の防災計画」、「文化遺産の防災危機管理」などに取り組んでいる。

平成 25 年度から令和 3 年度まで所長を務められた立命館大学歴史防災研究所は、前所長である土岐憲三氏により平成 19 年度から全国の小学生を対象に、地図を活用して地域の安全や安心への関心を深めてもらうことを目的に、「みんなでつくる地域の安全安心マップコンテスト」を毎年開催している。所長として継続的な運営に尽力されるとともに、令和 2 年 1 月から令和 3 年度末まで、全国児童生徒地図作品展連絡協議会の会長に就任いただいている。

この間、同マップコンテストによる防災を通じた地図への理解を深めさせる取り組みは、地理・地図教育の発展に大きく貢献した。更に、全国児童生徒地図作品展連絡協議会の発展・運営にも多大なる功績をあげられた。

◆^{しばた よしひこ}柴田 祥彦 (東京都立三鷹中等教育学校 指導教諭)

柴田祥彦氏は、東京都地理教育研究会及び全国地理教育研究会において、高校の現場から令和 4 年度の地理総合の必修化に伴う GIS の導入や指導案の共有などの課題解決に取り組まれた。

特に、歴史を専門とされる先生方が「地理総合」を教える場合の支援となるよう、平成 30 年から「地理教材の共有化」の取組を進め、令和 2 年には高校地理教員の有志と連携し「地理教材共有サイト」を公開した。コロナ禍でオンライン授業が増える中、本サイトでオンライン授業を活用することを前提とした教材の公開を進め、最近では地理総合に関する教材を公開するなど、地理教育活動に大いに尽力された。

また、平成 29 年から平成 31 年に測量行政懇談会地理教育支援検討部会委員を勤められ、高校教員の立場から国土院が取り組むべき施策について多くのコメントをいただくなど、測量行政にも多大なる貢献をした。

【団体】

◆^{いのうただたけけんきゅうかい}伊能忠敬研究会 (代表理事 ^{ひしやま たけひで}菱山 剛秀)

伊能忠敬研究会は、伊能図と伊能忠敬事跡の調査研究を行い、伊能忠敬の実像を普及して社会に貢献することを目的に平成 8 年に発足し昨年 25 周年を迎えた。これまで研究発表会、講演会などの開催、会報「伊能忠敬研究」の発行、その他研究会の目的達成に必要な事業を積極的に行っている。

昨年は、「大日本沿海輿地全図(伊能図)」の完成から 200 年目にあたることから、伊能忠敬の業績を顕彰するとともに、伊能図完成 200 年記念事業推進協議会を組織し、伊能図完成 200 年記念の各行事を主催者として開催している。また、落語家であり名誉会員である立川志の輔氏の創作落語「伊能忠敬物語—大河への道—」を原作とした映画「大河への道」にも「協力」として携わっている。

これらの取り組みは、近代測量の礎となり、その後の地図作成に長く影響を与えた伊能忠敬の実績や実像を広く普及することで、地図や測量の普及・啓発に多大な貢献をされており、その功績は極めて大きい。

◆^{しんかわにちようめえちいちふしんぶ}新川二丁目越一婦人部 (代表 ^{さかもと きくよ}坂本 喜久代)

新川二丁目越一婦人部は、中央区新川二丁目に設置する一等水準点「交無号」が、隅田川堤防脇の隅田川テラスにある花壇に移設された平成 18 年以来、水準点周辺の清掃や定期的に美しい花々を植えるなどボランティア活動を実施している。

一等水準点「交無号」の維持・管理に貢献するとともに、隅田川沿いを散策する多くの人々が本水準点に関心を持ち、明治 24 年に霊岸島量水標から日本水準原点の標高を定める起点となった、測量史上重要な点であることを理解することに寄与しており、功績は多大である。